

第1編

・
・
・

序論

・
・
・

第1章 池田町第六次総合計画策定の趣旨

第2章 計画の構成と期間

第3章 社会の潮流

第4章 池田町の概況

第5章 池田町民の想い

第6章 池田町の課題の整理



池田町第六次総合計画 策定の趣旨

第1節

総合計画をめぐる動向

国では、地方分権の推進にあたり、市町村が自立し、独自性を持った行政運営を行うことを目的に、平成23年の「地方自治法」の一部改正で地方自治体の基本構想の策定義務を廃止しました。

また、人口減少による地方の活力低下への対策として、平成26年に、「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、総合戦略を策定し地方創生の取組が求められるようになりました。

これにより、各市町村は総合計画の位置づけを独自で考え、そのまちならではのまちづくりを進めるために、総合計画を策定する必要があります。

第2節

策定の趣旨

本町においては、昭和47年に策定した「池田町総合開発計画」が行政運営の最上位計画として最初の総合計画でした。これまで5回にわたり順次策定し、まちづくりを推進してきました。直近の「池田町第五次総合計画」では、まち自らの責任と判断により、住民ニーズに主体的に対応し、住民と一緒にまちづくりを進めていくという方針で、行政と地域の協働による推進を図ってきました。

近年、本町においても人口減少が深刻化しており、それに付随するまちの機能の低下が懸念されています。また、人口が減少することによって、まちの活力も失われていくことになりかねません。そのため、今後は人口が減少しても、まちの機能を維持し、活力を損なわない、持続可能な地域社会を構築することが求められています。

「池田町第六次総合計画」（以下、本計画という）は、この持続可能な地域社会を構築するために、行政が担うべき役割と住民が担うべき役割を整理し、住民と行政が一体となり、総合的かつ計画的にまちづくりを推進していくことを目的として策定するものです。

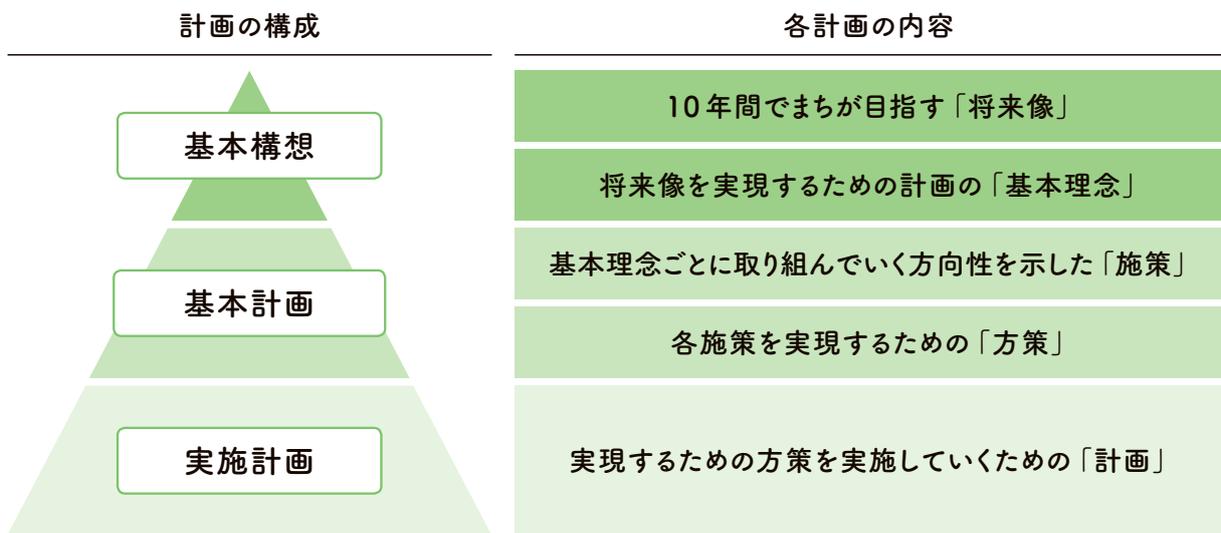
※プラン名について

「池田町第五次総合計画」では、計画のプラン名をつけていませんでしたが、以前は計画にプラン名をつけていました。本計画の策定にあたって総合計画の位置づけが変わり、まちの独自性を求められるようになったため、プラン名を定める運びとなりました。

この激動の時代の中にあっても変わらない自然と調和し共に歩いていくことで、池田町が輝き続けるまちであり続けたいという想いを込めて、プラン名を“自然と調和し輝き続けるまち創造プラン”としました。

第1節 計画の構成

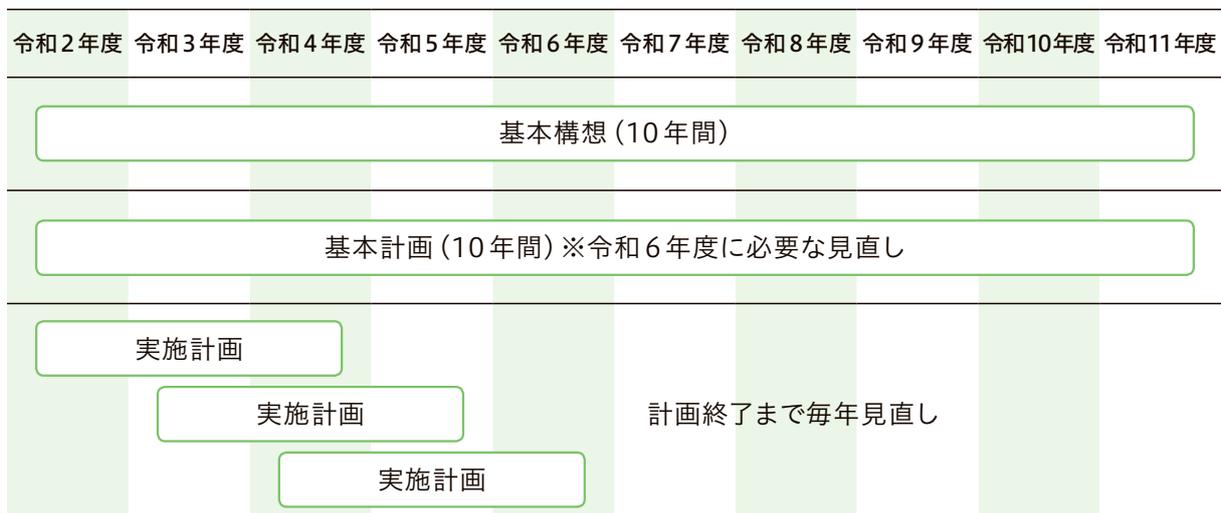
本計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3つで構成されています。それぞれで示している項目は以下の通りです。



第2節 計画の期間

基本構想及び基本計画の期間は、令和2年度から令和11年度の10年間とします。ただし、基本計画については、中間年度にあたる令和6年度に必要な見直しを行います。

実施計画については、3年間の計画を立て、毎年見直しを行います。



1

人口減少・超少子 高齢社会の到来

日本における人口は、平成20年以降減少しています。しかし、高齢者の割合は年々増加しており、令和16年には日本の人口の3人に1人が高齢者になると言われています。

このように、人口が減り、高齢者の割合が増えることによって、社会保障費や医療・介護サービス等の需要が増大し、既存の社会システムが立ち行かなくなる可能性があります。そのため、施設等の機能の集約や統廃合により、人口減少に耐える社会システムの構築が求められています。

3

人生100年時代の 到来

超高齢社会が現実のものとなり、「人生100年時代」を迎えることが予想されており、そのような長寿社会において、高齢者がいきいきと活動できる社会づくりが求められています。

また、高齢者だけでなく、若者も今後の100歳までの長寿社会を生きていくために、生涯にわたって一人ひとりの価値観やライフスタイルに応じた暮らし方や働き方を選択できる環境が必要とされています。

2

“チルドレンファースト” な子育ての推進

国では、「チルドレンファースト=子どもが主人公」という考え方にに基づき、将来を担う子どもを第一に考えた子育て支援を展開しています。特に、近年は全国的な課題として待機児童の問題が取り上げられ、保育の受け皿の確保と質の向上が図られています。

また、学校教育では平成29年に告示された新学習指導要領によって、子どもたちの「生きる力」を育むために、「知能・技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」「学びに向かう力・人間性等」の向上を図ることとされています。

4

安心・安全な 暮らしの確保

東日本大震災以降、防災・減災の意識は高まっており、地震をはじめ、台風や集中豪雨等の災害が起きても安全の確保ができるまちづくりは、今後ますます重要視されることが予想されます。特に、大型地震においては、役場が被災し行政機能自体が維持困難になる場面も想定され、災害時における自助・共助・公助の一体となった取組が求められています。

また、災害だけでなく、防犯面における安全の確保や、施設やインフラの老朽化等も暮らしの安心を脅かすものであり、多様な視点から住民の安心・安全な暮らしを確保することが必要です。

5

雇用状況や情報化 による仕事の変化

全国的な雇用状況として、有効求人倍率は改善傾向にありますが、非正規雇用者が増加しています。また、生産年齢人口の減少が見込まれており、女性や高齢者、外国人等、多様な人々の働きやすい環境づくりが求められています。

さらに、ICT（情報通信技術）の発達により、人々の暮らしや社会システムが大きく変化しています。場所や時間を問わずだれもがネットワークにつながり、情報を受発信できる環境が構築された今、働き方や仕事の形態も変わりつつあります。

6

住民協働の まちづくりの推進

人口減少に伴い、全国的に高齢化や自治会加入率の低下、住民間の交流の希薄化等が課題となっています。そのため、地域活動の担い手やボランティアへの参加者も減少しており、地域の活力低下につながっています。

これを受けて、地域のつながりの重要性が再認識され、地域の住民同士の交流や活動、ボランティアへの参加をきっかけに、住民にまちづくりへ参画してもらい、住民協働のまちづくりを進めることが必要とされています。

7

地域の自立経営

平成12年の「地方分権一括法」の施行以降、地域での自立的な取組が求められており、地域の抱える課題を、行政だけでなく住民や地域団体、企業や学校等、様々な主体で解決していく協働型マネジメントサイクルが必要とされています。

また、平成27年には「まち・ひと・しごと創生法」に基づき総合戦略の策定が努力義務とされました。これにより、それぞれの市町村が地域の特徴を生かしながら、移住定住や子育て支援、観光振興等の政策に対しKPI（重要業績評価指標）を設定し、PDCAサイクルを実行しています。

さらに、近年はふるさと納税やクラウドファンディング等、資金調達面でも仕組みづくりが進められています。このような取組を進めることで地域の持続可能性を見据えた自立経営を目指すことが必要となっています。

8

国際化の動向

国を超えた経済活動や、人の流入が活発になっており、今後は外国人労働者や外国人観光客の増加が予想されます。このことから、国際社会に応じた競争力の向上が重要です。

また、平成27年に国連総会において持続可能な社会を実現するための17の目標と、169のターゲットから構成される2030年までの国際目標「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されました。日本においてもSDGsの推進が求められており、今後自治体においても、SDGsを踏まえた世界基準の取組が必要となります。

第1節

地理的条件と沿革

本町は、木曾三川によって形成された広大な濃尾平野の北西部に位置しています。町の西部には標高924メートルの池田山を背負い、町の総面積の3分の1が山地となっています。平野部には、一級河川の揖斐川をはじめ6つの川が流れており、豊かな自然を有しています。

また、東は神戸町、西は垂井町、南は大垣市、北は揖斐川町に隣接しており、町の中央には国道417号が南北に、町の南部には岐阜関ヶ原線が東西に通っています。さらに、住民の大切な足となっている養老鉄道も走っており、岐阜市や名古屋市へのアクセスが良好です。

本町は、昭和25年に池田村が北平野村大字白鳥を編入、昭和29年に町制が施行され温知村が池田町となりました。昭和30年には旧池田町、八幡村、宮地村が合併して新池田町が成立し、翌年の昭和31年に市橋の一部が赤坂町へ編入、さらに養基村の一部(田中、粕ヶ原、沓井)が池田町に編入されました。その後、平成の合併協議における揖斐郡町村合併推進協議会や西濃圏域合併協議会において合併の機運が高まりましたが、住民の意向により単独存続の道を選択し現在に至っています。

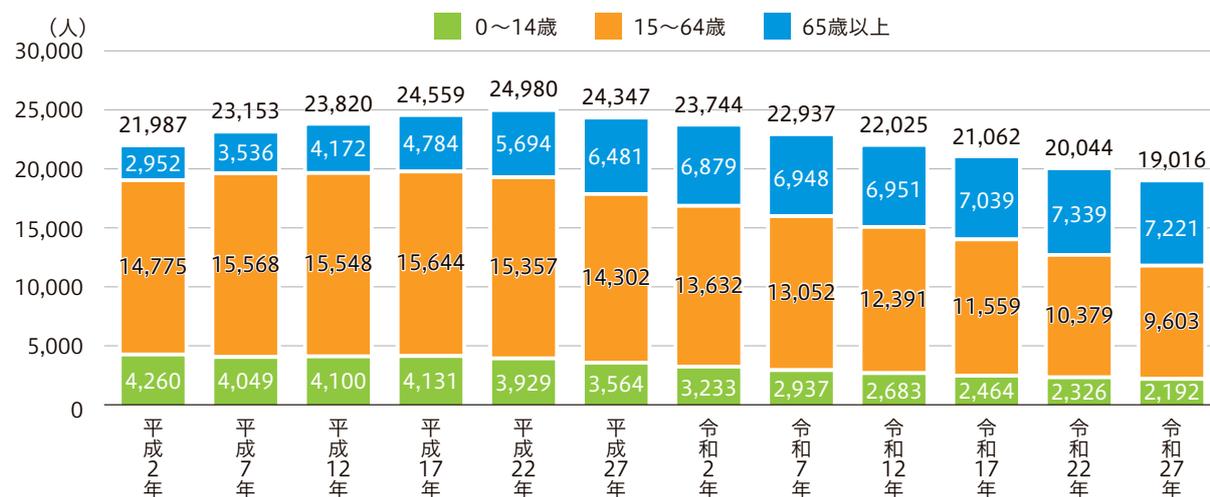


第2節 人口の見通し

近年、本町においても人口減少及び少子化の問題が深刻になっています。本町では、平成22年の24,980人をピークに減少傾向に転じており、平成27年には24,347人となっています。現在のペースで減少していくと、25年後の令和27年には人口が20,000人を下回ることが予想されます。また、0～64歳までの人口は減少しているのに対して、65歳以上の高齢者人口は加速的に増加しており、15年後の令和17年には7,000人を超え、3人に1人が高齢者になると予想されます。

人口ピラミッドを見ると、令和12年の人口構成において、平成27年と比べて50歳未満の人口が大幅に減り、80歳以上の人口が増える見込みとなっています。

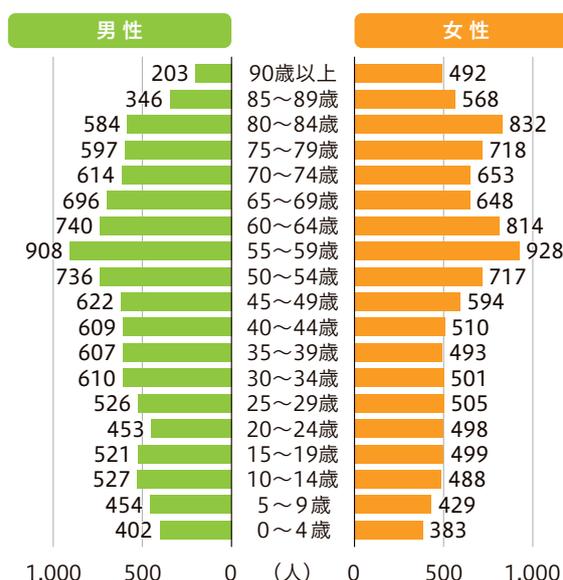
■人口の推移と推計



■平成27年の人口ピラミッド



■令和12年の人口ピラミッド(推計値)



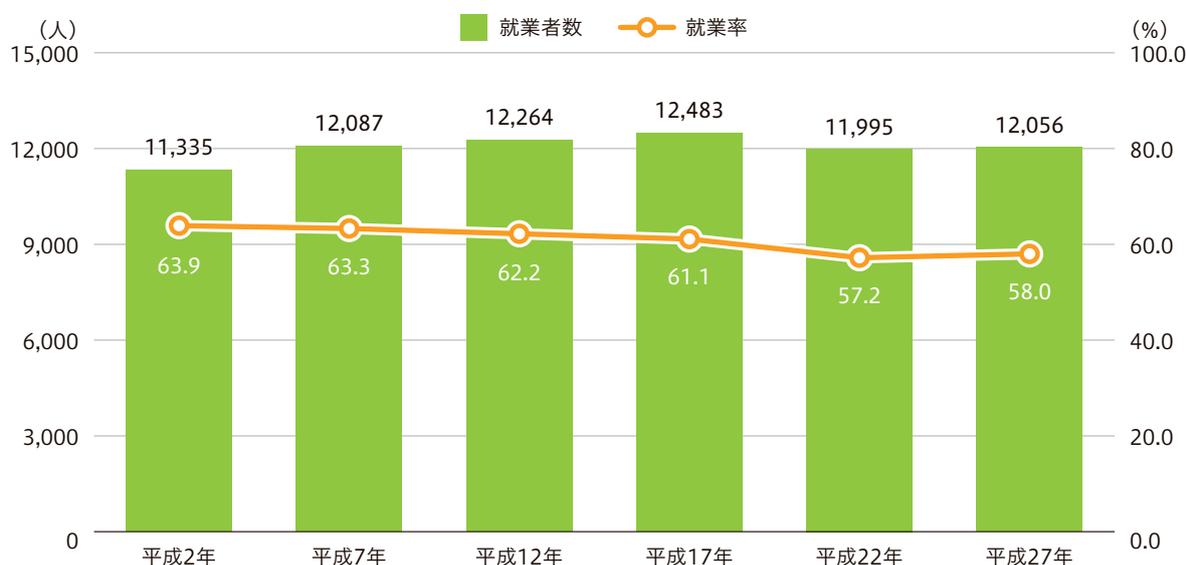
資料：総務省「国勢調査」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

第3節 就業状況

本町の就業者数の推移を見ると、平成17年が最も高く、その後平成22年で減少したものの、平成27年に微増となっています。就業率を見ると、年々減少傾向にあります。こちらも平成27年に微増となっています。

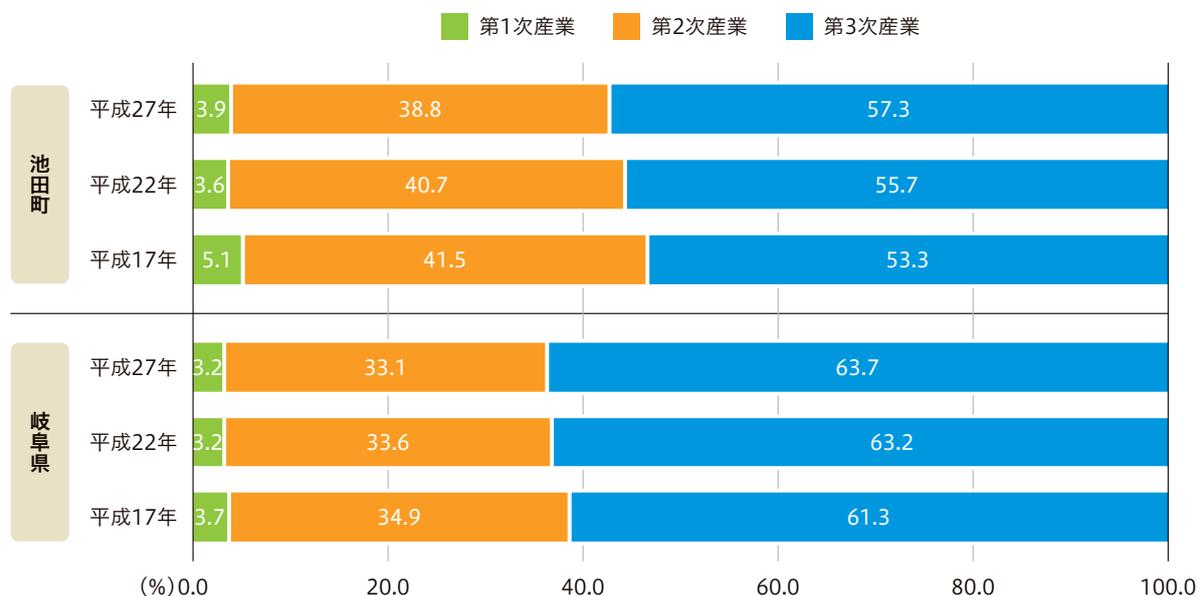
産業分類別の就業者人口割合の推移を見ると、第2次産業の割合が減少し、第3次産業の割合が増加傾向にあります。岐阜県と比較すると、第2次産業の割合が高くなっています。

■就業者数と就業率の推移



資料：総務省「国勢調査」

■産業分類別の就業者人口割合の推移（岐阜県比較）



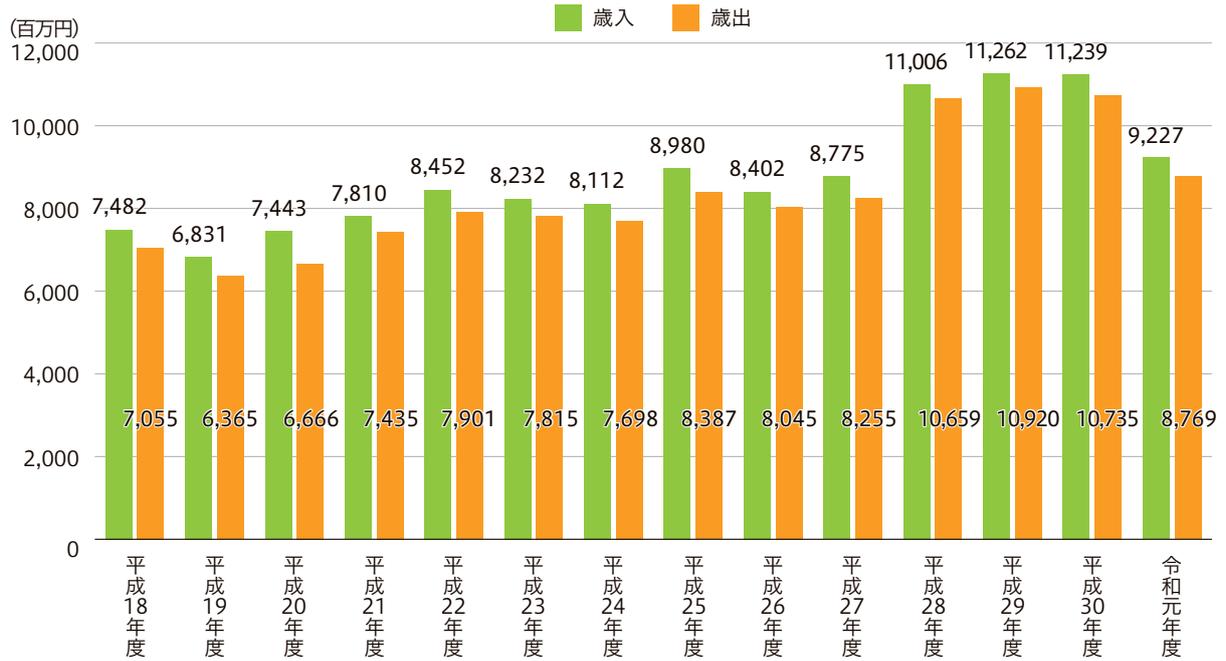
資料：総務省「国勢調査」

第4節

財政状況

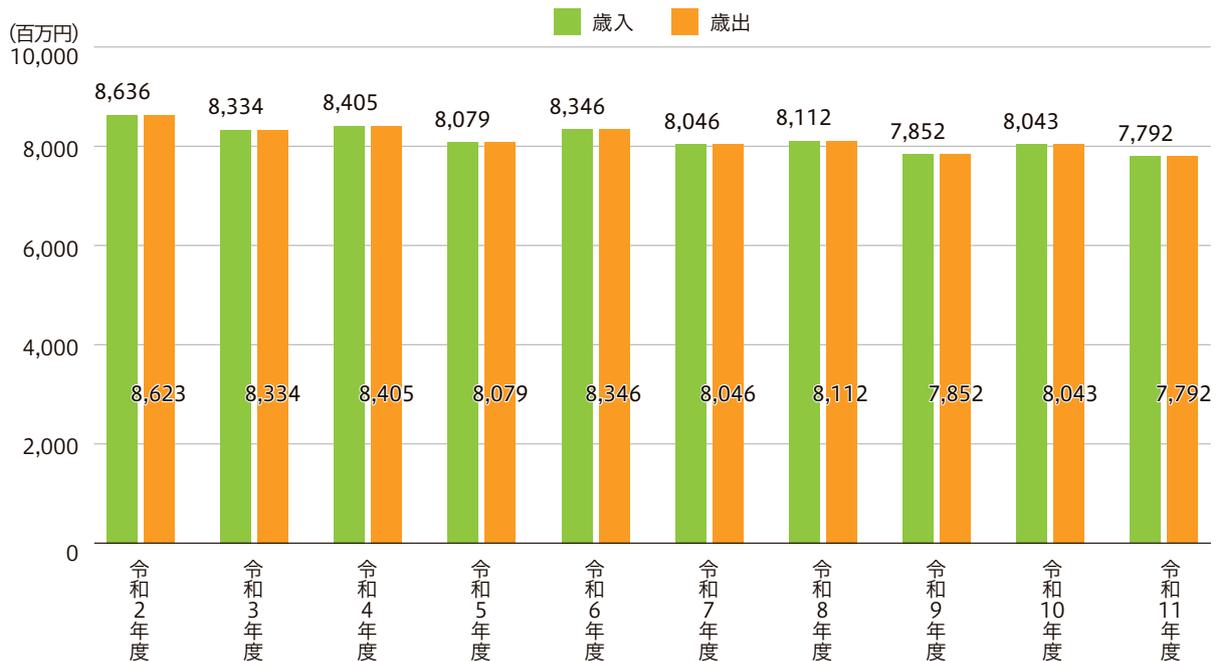
本町の財政状況は、歳入決算額が歳出決算額を上回っており、安定していると言えます。今後は人口減少に合わせて、予算規模も徐々に減少していく見込みです。

■歳入・歳出の推移実績



資料：池田町「財政計画」

■歳入・歳出の推計



資料：池田町「財政計画」

第1節

アンケート調査から見た住民の思い

住民が、まちの現状に対してどのように感じているのか、そしてこれからのまちづくりについてどうしてほしいと考えているのかを把握するために、アンケート調査を実施しました。

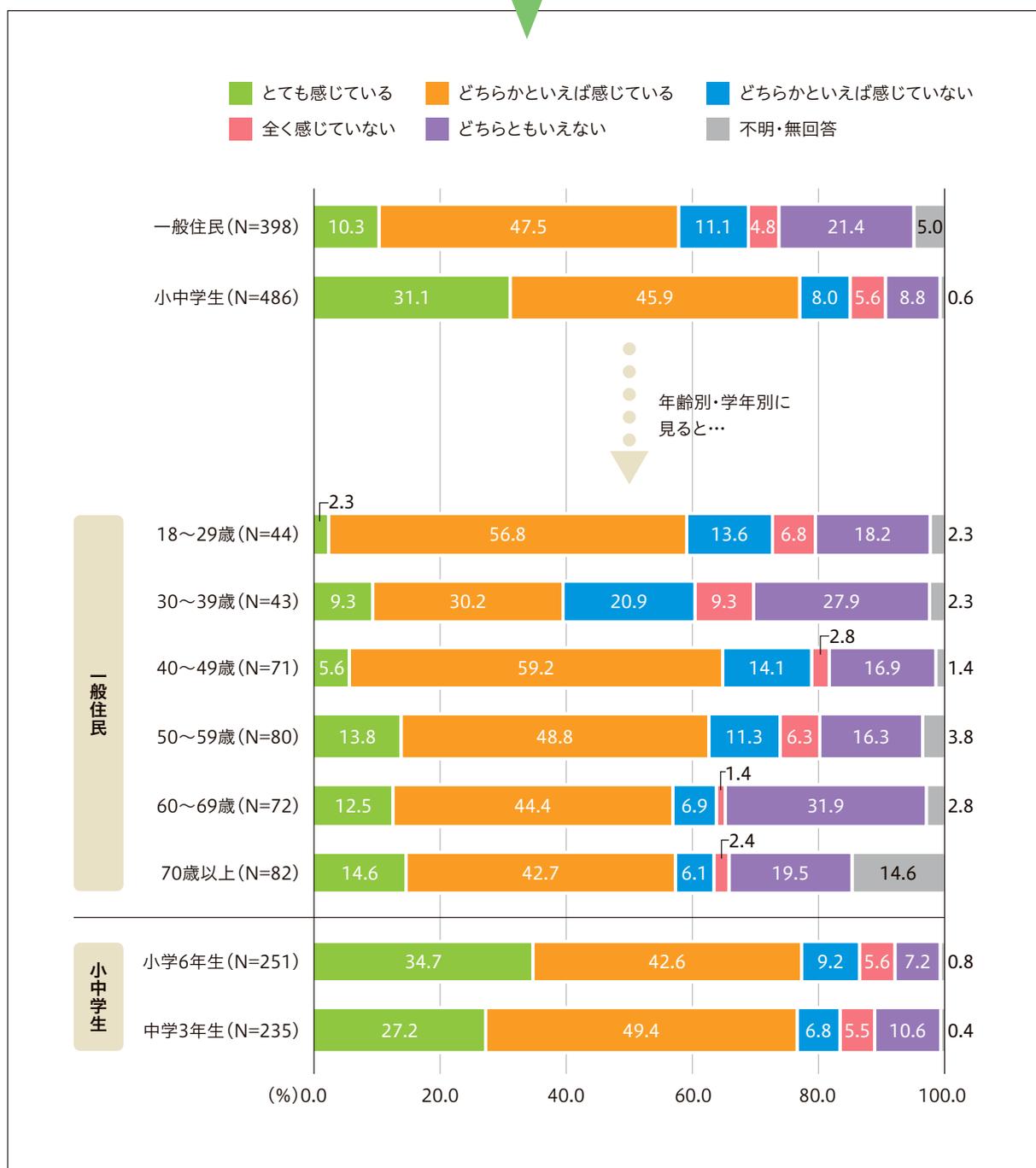
調 査 概 要

調査対象者	一般住民 (池田町に居住している 18歳以上の住民)	小中学生 (池田町の小中学校に通う 小学6年生と中学3年生)
抽出方法	住民基本台帳から対象者 を無作為に抽出し配布	対象者全員に配布 (全数調査)
調査期間	平成31年2月19日～ 3月3日	平成31年4月17日～ 4月26日
調査方法	調査票による本人記入形式	
調査項目数	28問	17問
配布・回収方法	郵送配布・郵送回収	担任の先生による 直接配布・直接回収
配布数	700件	506件 (小学6年生251件、 中学3年生255件)
有効回収数	398件	486件
回収率	56.9%	96.0%

(1) 池田町への愛着

一般住民の6割近く、小中学生の8割近くの方が、池田町に対して愛着を感じています。年齢別で見ると、一般住民では40～59歳の方が特に愛着を感じています。

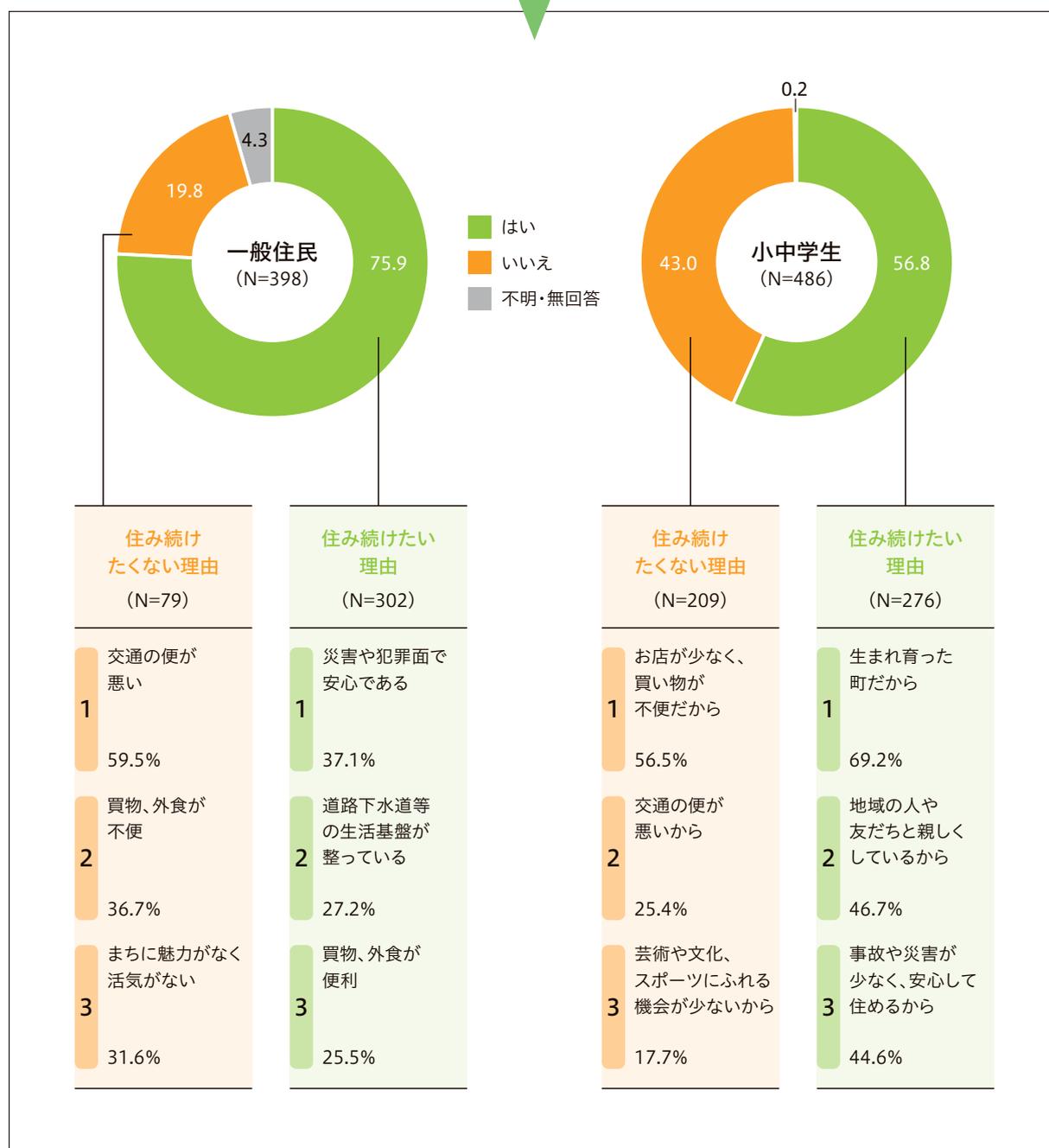
池田町に愛着を感じていますか



(2) 池田町への定住意向

一般住民の7割以上、小中学生の5割以上の方が、池田町に住み続けたいと考えています。住み続けたい理由としては、災害や犯罪面で安心であることが一般住民・小中学生両方で挙げられています。住み続けたくない理由としては、交通の便やお店が少ない等利便性が低いことが一般住民・小中学生両方で挙げられています。

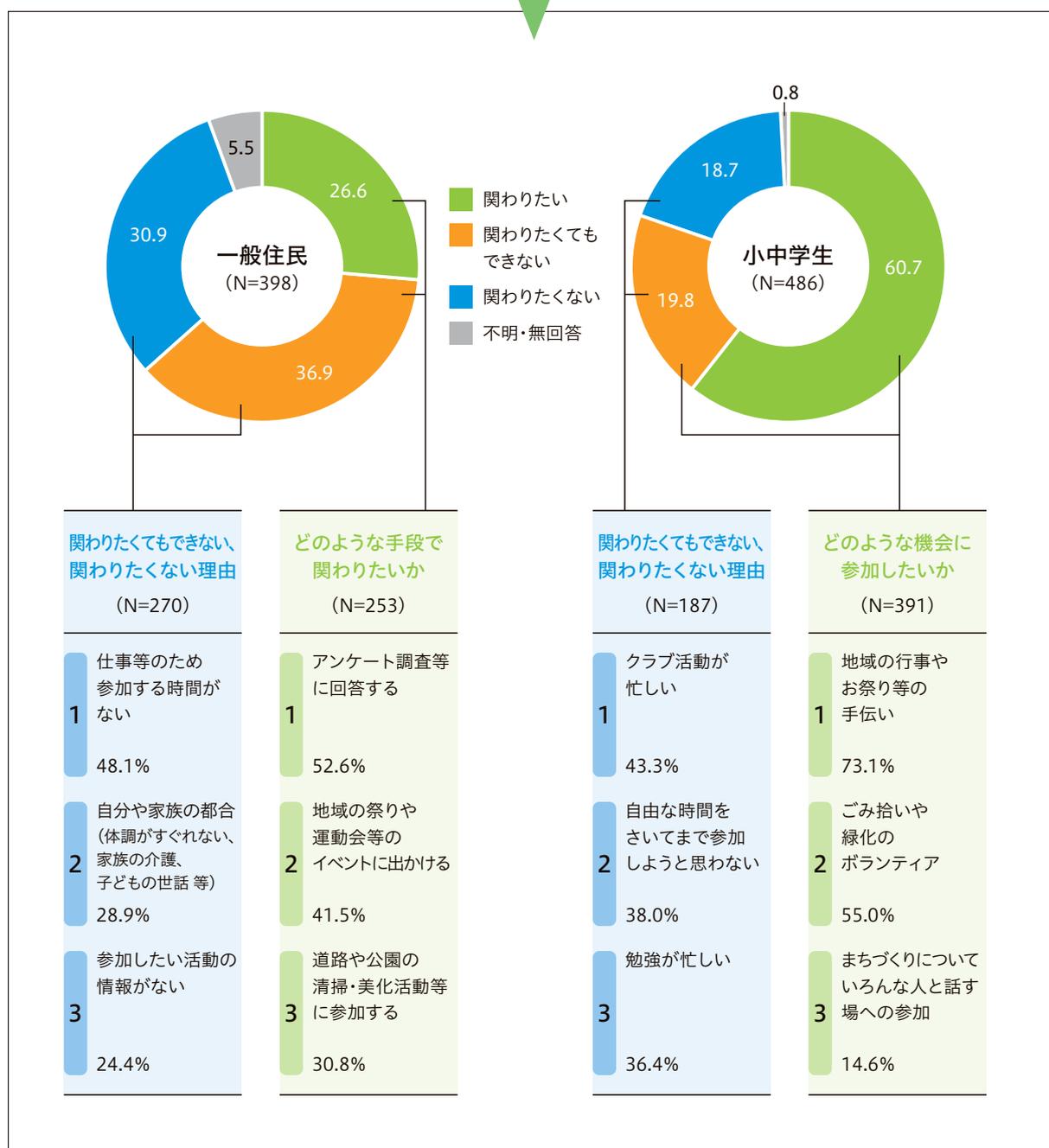
将来も、池田町に住み続けたいと思いますか



(3) 池田町のまちづくりへの参画意向

一般住民の2割以上、小中学生の6割以上の方が、池田町でまちづくりに関わりたいと考えています。関わり方としては、地域の行事に参加することや、ボランティアに参加することが一般住民・小中学生両方で挙げられています。関わりたくない理由としては、仕事や勉強・部活動といった、普段の生活が忙しいため参加できないことが、一般住民・小中学生両方で挙げられています。

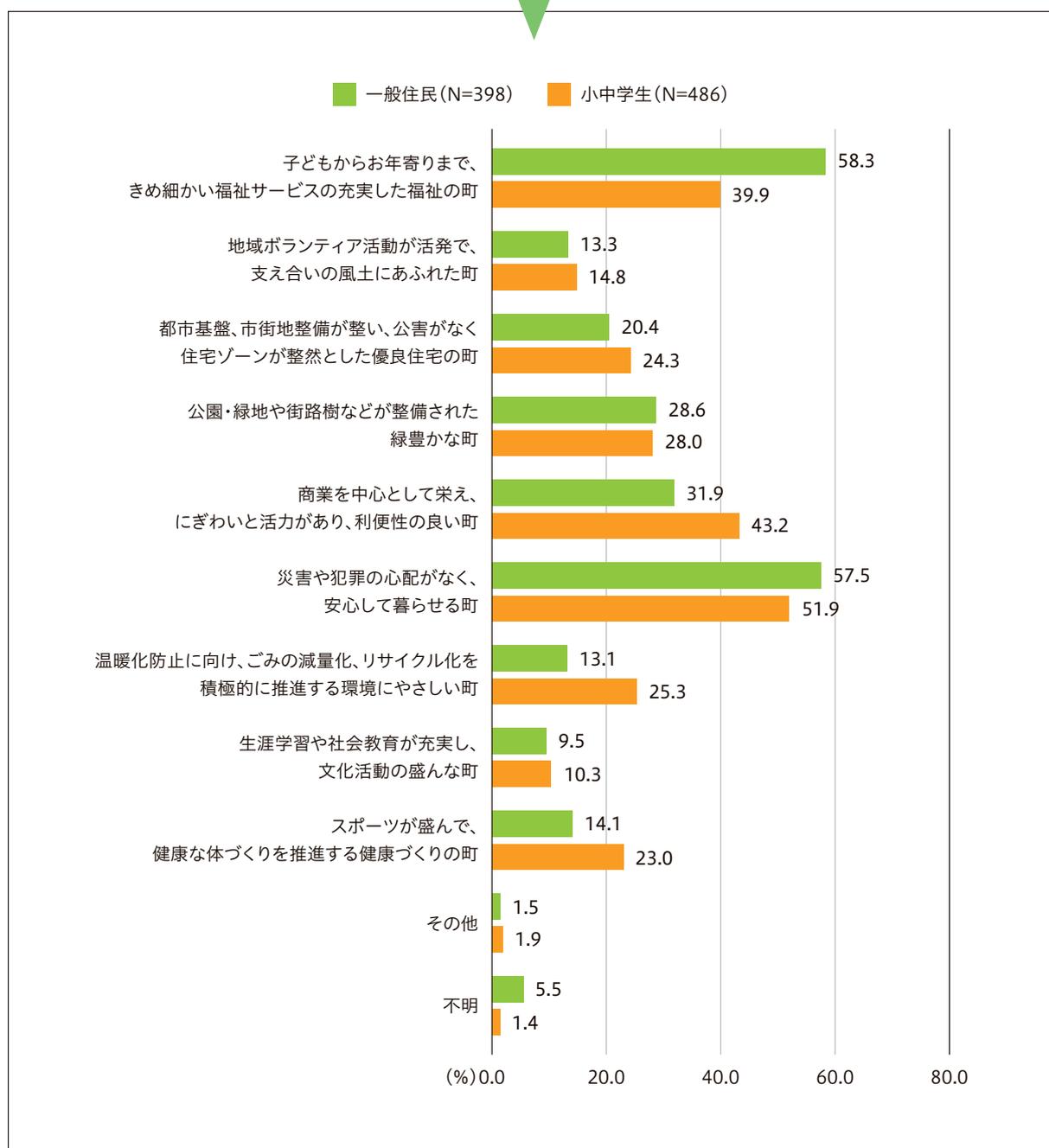
今後、池田町のまちづくりに関わりたいと思いますか



(4) 池田町の将来像として望む姿

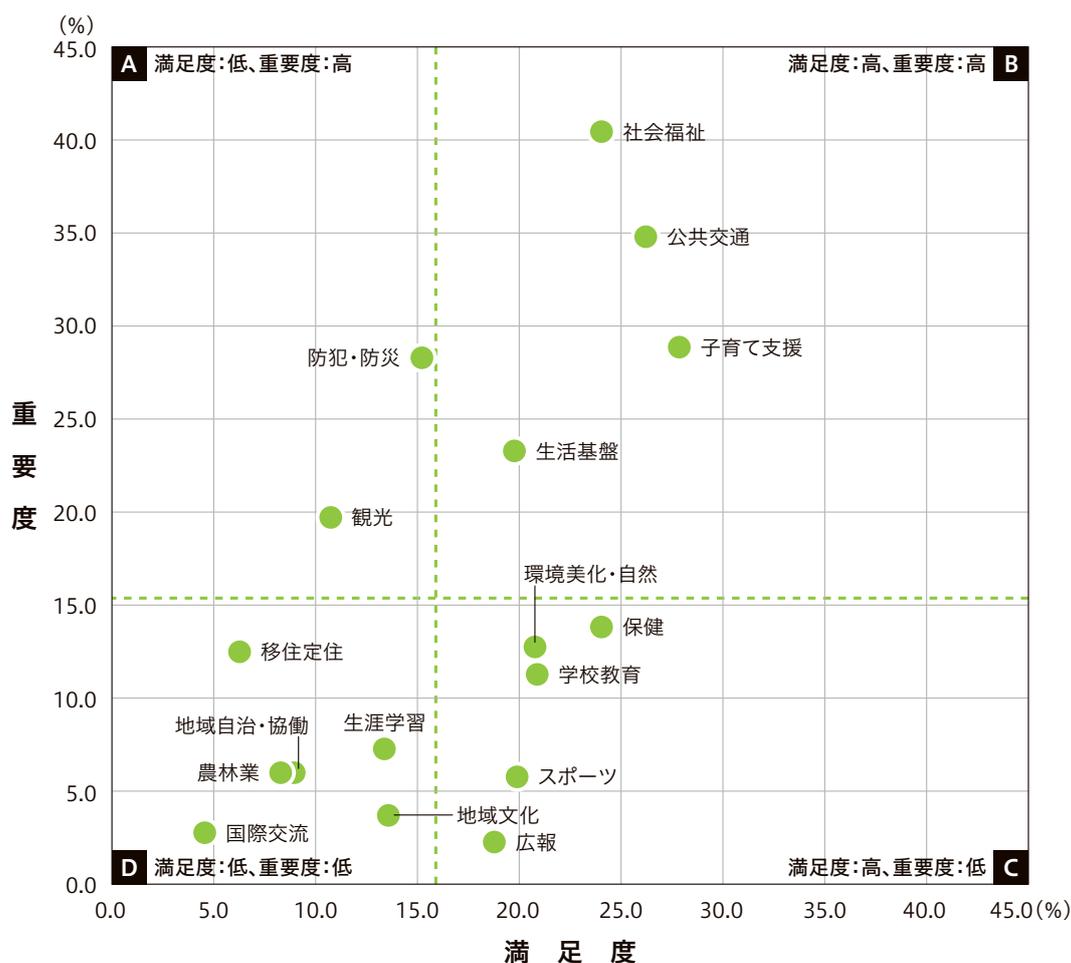
一般住民・小中学生両方において、「災害や犯罪の心配がなく、安心して暮らせる町」になってほしいと考えています。次いで、一般住民では「子どもからお年寄りまで、きめ細かい福祉サービスの充実した福祉の町」、小中学生では「商業を中心として栄え、にぎわいと活力があり、利便性の良い町」が高くなっています。

池田町の将来像として、今後どのような町であってほしいと思いますか



(5) 池田町の施策に対する満足度と重要度

本町の各施策に対する満足度と重要度を分析すると、社会福祉や公共交通、子育て支援については、重要度が高く、かつ、既にある程度の満足度を得られています。反対に、防犯・防災や観光については、重要度に対して取組が不十分であるため、今後重点的に取り組むことが必要と考えられます。



※各エリアの考え方

エリア	説明
A 重点取組エリア	重要度が高いにもかかわらず、満足度が低く、優先して充実が求められている項目
B 継続取組エリア	満足度も重要度も高いため、継続して充実する必要がある項目
C 取組検討エリア	満足度は高く、重要度が低いため、満足度は維持しつつ、場合によっては満足度の低い他の項目へ注力していくことを検討する必要がある項目
D 取組強化エリア	満足度も重要度も低いため、他の項目との優先順位を勘案しながら、満足度を向上していくべき項目

※グラフの作成にあたり、重要度については、重要だと思う18項目の中で選択された項目(複数回答可)ごとの割合、満足度については、各項目で、5項目中「満足している」「やや満足している」と回答した人の割合をアンケート調査から抽出し作成しています。

第2節 ワークショップ「池田未来会議」から見た住民の想い

広く住民の意見を反映するため、これからのまちづくりに向けて、池田町の理想の姿、まちの魅力や改善点、住民一人ひとりができること等について話し合うワークショップ「池田未来会議スタートアップカフェ」を実施しました。

実施にあたっては、高校生から高齢者、一般の方から団体活動者、町職員と幅広い層の方にご参加いただきました。また、新聞記事への掲載やケーブルテレビでの放映、ニュースレターの発行等の情報発信も行い、参加者にとどまらない形で住民の考える理想的な池田町の姿を発信しました。

検 討 内 容

第1回WS (令和元年5月11日実施 池田町中央公民館)

池田町の理想の姿を考えよう!

池田町第五次総合計画の中でも重要視されていた5つのキーワード「健康・福祉」「地域安全」「生活環境」「教育」「産業」に分かれ、それぞれのテーマにおける「池田町の良い点」「池田町の改善点」を話し合いながら、池田町の10年後の理想の姿を考えました。

主 な 意 見

	理想の姿	池田町の良い点	池田町の改善点
健康・福祉	安心して健やかに暮らせる町 池田町	<ul style="list-style-type: none"> ● 18歳まで医療費が無料 ● 健康づくり教室・イベントが充実している ● サロンやワンコインカフェ等の活動が活発 ● 子育てサービスや介護サービスが充実 	<ul style="list-style-type: none"> ● サロンやカフェの参加者が同じ顔ぶれ ● 必要な人に福祉サービスが届いていない ● 小児専門の医療機関がない ● 医療費が増大している
地域安全	安心・安全で明るく住みやすい池田町	<ul style="list-style-type: none"> ● 登下校の見守りがしっかりしている ● 小学生の下校時のアナウンスが良い ● 警察のパトロールが行き届いている ● 道路整備が進んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 街灯が少ない ● 自転車の交通マナーが悪い ● 見通しの悪い交差点が多い ● 災害時に地域で協力し合えるか不安
生活環境	住みやすい町 池田町	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然が多くて水や空気がキレイ ● 車道が整備されていて移動しやすい ● リサイクルセンターで毎日回収がある ● 池田山山麓がキレイ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公園、歩道が少ない ● 空家対策ができていない ● 歩道に段差があって危ない ● ごみの出し方、分け方がわかりにくい
教育	International Kind Education Design Active	<ul style="list-style-type: none"> ● こども園・小中学校がキレイ ● 漢検補助があつてうれしい ● 災害が少なく安全で住みやすい町 ● 地域の人があいさつしてくれる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際交流が少ない ● 自然にふれる授業が少ない ● 高齢者の教育の場が少ない ● 通学バスがない
産業	池田町の3rd placeを目指して	<ul style="list-style-type: none"> ● 池田温泉、道の駅での足湯 ● 豊かな自然、池田山の夜景 ● スーパーマーケットが多い ● 「わかも会」による特産品の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ● 若い人の遊び場、働く場が少ない ● 池田温泉のお客さんが減っている ● 駅の近くに商業施設が少ない ● 飲食店が少ない

第2回WS (令和元年5月18日実施 池田町中央公民館)

自分たちで何ができるか考えよう!

第1回で話し合い、掲げた「理想の姿」を実現するために、「一人ひとりができること」「こんな支援があったらいいなと思うこと」を話し合い、今後のまちづくりに必要なことを考えました。

主 な 意 見

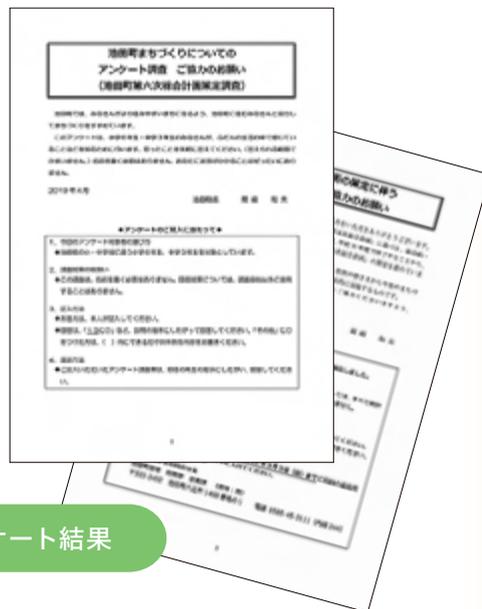
	一人ひとりができること	こんな支援があったらいいなと思うこと
健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ● サロンやカフェに参加する ● 自分の健康に関心を持って、生活習慣を見直す ● 自ら健康づくりに取り組み、定期健診を受ける ● 普段から地域の人と話をしたり、声掛けをしたりする ● 地域の健康・福祉情報を積極的に発信する 	<ul style="list-style-type: none"> ● ワンストップの相談体制を整備してほしい ● 若者に見やすい広報 ● 医療巡回バスに AI を ● 自治会単位での子育て相談支援があればよい
地域安全	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通ルールを遵守する ● 夜間タスキやシートベルトの着用等、安全対策をする ● 高齢になったら、運転免許を返納する ● 住民に見守り活動への協力を呼びかける ● 災害に備えて、危険な場所や避難場所を把握する ● 地域の防災活動に参加する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 主要道路に防犯カメラを設置してほしい ● 街灯・歩道を増やしてほしい ● 災害時の情報伝達手段を充実させてほしい ● コミュニティバスを土日も走らせてほしい
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ● エコを意識し、日常生活で実践する ● 楽しんで参加できる住民ごみひろい day をつくる ● ホタルとコラボして、空家で街灯アートのイベントをする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歩道のある場所や見通しの悪い場所がわかるマップを作ってほしい ● 公園や広場がもっとほしい ● お店の誘致や子育て交流等に空家を活用してほしい
教育	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分からあいさつをする ● 地域の問題を考え、課題解決に取り組む ● 海外からの移住者等との交流に参加する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 漢検以外の検定補助制度を充実させてほしい ● 社会人のマナー・スキル教室を開催してほしい ● 通学バスとして利用できるよう、コミュニティバスの路線や時間を見直してほしい ● イベントの精査・統合
産業	<ul style="list-style-type: none"> ● SNS 等を活用し、自分の知人に町の良さを紹介する ● 観光農業体験ができる場所を提供する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 池田温泉の近くに家族で楽しめるレジャー施設を作ってほしい ● 池田町ならではの体験ができる場を増やしてほしい ● 研究機関等の企業を誘致してほしい

第3節 住民の想いのとりまとめ

アンケートやワークショップでうかがった意見を基に、これからまちづくりを行うにあたって、住民が必要だと考えている視点を、キーワードとして抽出しました。

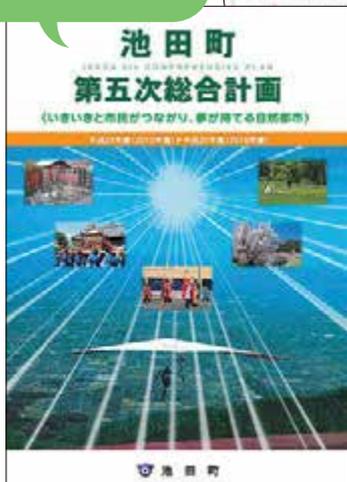
また、その抽出したキーワードをこれまでの施策と照らし合わせながら、5つの分野としてグループ分けを行い、本計画の柱立てとなる分野を定めました。

ワークショップ結果

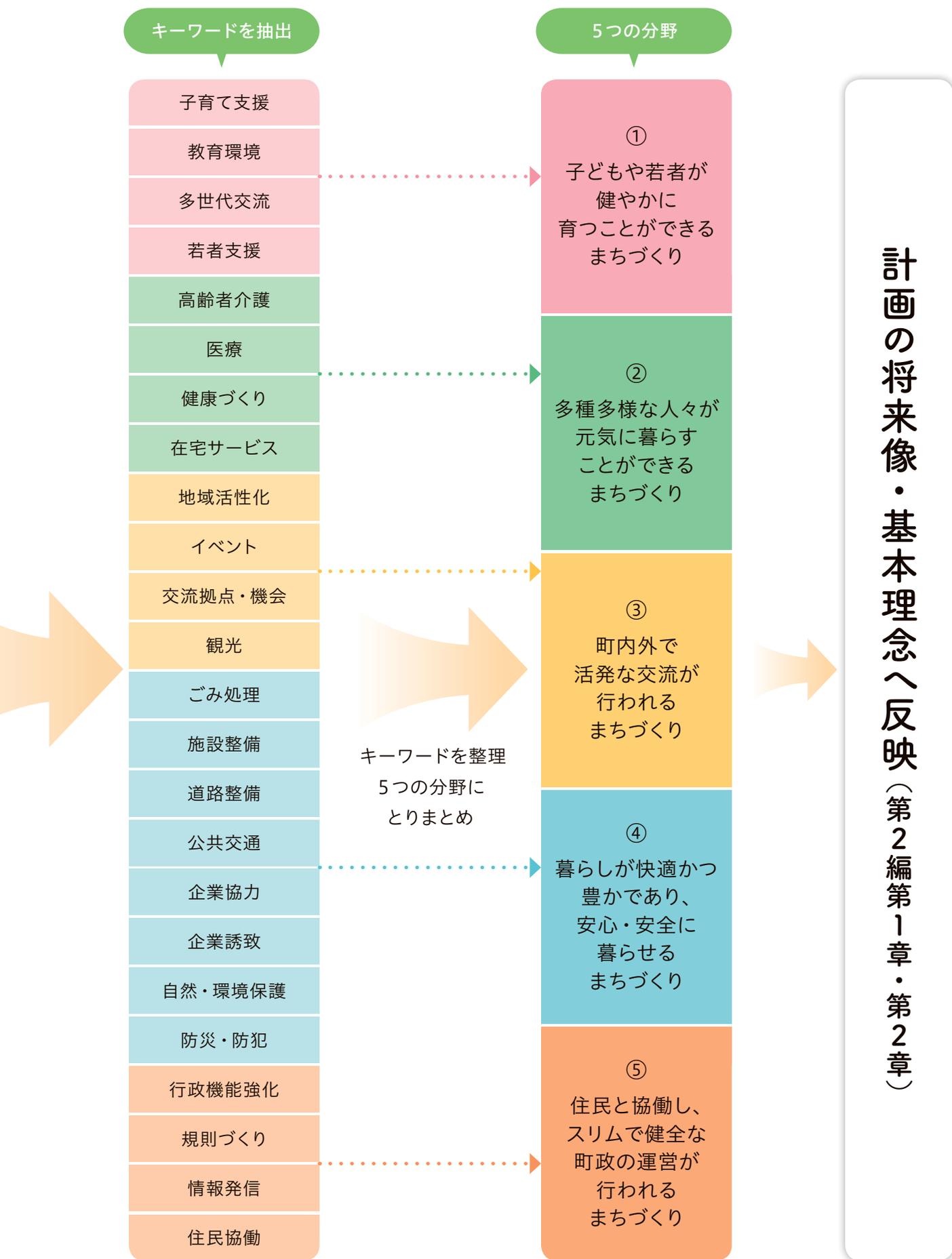


アンケート結果

これまでの施策



計画審議会・策定委員会での意見



池田町の課題の整理

住民からいただいたご意見を基に定めた5つの分野について、本町における現状と課題をまとめました。

①子どもや若者が健やかに育つことができるまちづくり

近年、人口減少が進む中で、子育てに対して力を入れることが重要視され、国でも「チルドレンファースト」の考えに基づいた子育て支援を図っています。

本町においても、子どもの数が年々減少傾向にある中で、医療費助成やコミュニティママ子育てサポート事業等、様々な子育て支援施策を講じています。その結果、住民からの評価としては満足度の高いものとなっており、一定の成果を上げています。また、令和元年度より「子育て世代包括支援センター」を設置し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制の確立を目指して取組を進めています。今般、女性活躍の推進により働く女性が増加したことで保育ニーズは高まっており、低年齢児に対する保育の受け皿の確保や、学童保育の拡充が求められています。

教育面においては、一人ひとりの個性を大切にした教育を推進しており、住民からの満足度は高いものとなっています。しかし、施設面の老朽化や、支援の必要な子どもの増加等、学校を取り巻く課題は形を変え存在しているため、すべての子どもが質の高い教育を受けられる環境を作ることが必要となっています。

②多種多様な人々が元気に暮らすことができるまちづくり

本町では、「福祉の町」として充実した福祉サービスの提供を目指し、これまで施策を推進してきました。

高齢者福祉については、介護サービスの充実や、施設の整備に努め、十分な介護の支援体制を確保しています。さらなる高齢化率の上昇に伴う利用者の増加に備えて、より一層体制を充実させることが必要です。

障がい福祉については、近年療育手帳や精神障害者保健福祉手帳の保持者が増加しており、それぞれの障がいに応じた適切な支援が求められています。また、障がいのある人の地域生活移行や就労移行についても取組を進める必要があります。

さらに、福祉の充実を進めるためには、公的な福祉サービスの提供だけでなく、地域の中で高齢者や障がいのある人をはじめとした支援を必要としている人々を支えるネットワークを構築し、自助・共助・公助が図られる地域づくりを進めることが重要となっています。

住民の健康づくりにおいては、ワークショップの中で健康づくりの活動が充実しているという声がありましたが、高血圧や糖代謝異常者が県平均を上回っており、国保特定健康診査受診率が県平均より下回っている状態です。今後は、より一層住民の健康に対する意識の向上を図る必要があります。

医療分野については、医療機関数は増加傾向にあります。移動手段を持たない人への送迎サービスや往診などの対応ができる医療機関が必要です。

③町内外で活発な交流が行われるまちづくり

平成24年度に行われた岐阜国体では、町内においてバドミントン競技が行われ、その際、町内の各地区で選手の受入れを行ったことで、地域交流の基盤を作ることができました。また、平成27年度より、「岐阜県池田町版地方創生総合戦略」に基づき地方創生プロジェクトを多数実施しており、住民主体の活動が積極的に行われています。このように、地域の交流のための“芽”は出てきていますが、まだ一部の住民が先導している状況です。今後は、この交流の“芽”を育成していき、地域全体での交流、そして町内全域での交流につなげていくことが必要となっています。

また、観光面では、池田温泉や池田山をはじめとした人気のある資源が存在しています。新たに魅力的な観光資源を創出することや、情報発信の充実、周辺の商業施設や公共交通網の整備を進め、本町をより活力のあるまちにしていくことが必要です。また、観光をはじめとした様々な取組の中で、広域連携による近隣他市町との協働を図り、町外交流を活性化させていくことも重要となります。

加えて、住民同士の交流が図られ豊かな暮らしを送るためには、文化芸術・スポーツの振興や、人権を守るための活動を充実させることも重要です。

④暮らしが快適かつ豊かであり、安心・安全に暮らせるまちづくり

住民の暮らしにおいて必要不可欠な上下水道や道路、交通網等のインフラ整備については、安心・安全な暮らしができるように整備を行ってきました。住民からの満足度は高く一定の成果を上げています。しかし、アンケート結果やワークショップ等では、インフラの老朽化対策やさらなる利便性の向上を望む声が多くなっています。さらに、近年の大規模災害等を踏まえると、災害に強いインフラを整備していくことも必要です。

また、産業については、企業誘致を図るとともに、町内企業への支援の充実にも努めています。しかし、本町の若者が就職する際には、雇用の場を求めて町外へ流出していくことが多く、今後は若者が働きたいと思える就労の場を作っていくことが必要となっています。

環境については、本町が有する豊富な自然を守り育てるために、環境状況の調査や保全活動、住民が自然とふれあう機会の提供等に取り組んでいます。引き続き、住民の自然保護の意識を向上させながら豊かな自然を守り、自然と調和したまちづくりを目指します。

⑤住民と協働し、スリムで健全な町政の運営が行われるまちづくり

町政運営にあたっては、町政の透明性の向上と、適正な人員配置や施設運営によって健全化を図っています。また財源の確保については、ふるさと納税の活用や企業誘致によって、自主財源を確保できるように取り組んでいます。施設運営面では適切な管理を目指し、適宜改修・修繕を図っていますが、施設の老朽化による建て替えや、人口減少による統廃合の検討が必要となっています。財政の健全化のために最小の経費で最大の行政効果を導き出す町政に努めます。

また、住民と協働のまちづくりについては、住民の意見の発信の場は増えており、今後は自発的に動くことができる人やリーダーの育成が求められています。